San Diego Jpanese Ministry

OCT 2026



夏を駆け抜け、若者達を迎えて･･･

今年の夏は忙しさのあまりに目が回った。いや、がむしゃらに駆け抜けた！と言った方が良いだろう。

私たちは今年の夏、米国に来てはじめて教会Campを実施しました。そのために昨年から下見と準備を重ねました。また昨年に続きJAPANFAIRも開催しました。更に今年は多くのゲストを招いて、盛大なものとなりました。まずゲストの一人としてご奉仕くださったのは、クリスチャン音楽家のDuo高瀬ご夫妻です。その時期彼らはLAの諸教会で奉仕を行っていました。そのためサンディエゴに来ることは当初不可能でした。ところが神様の不思議な導きにより、私たちのJAPANFAIR当日だけ予定が全てキャンセルになったというのです！そのためわざわざLAからサンディエゴまで来てくださり、イベントに参加してご奉仕くださいました。
また遠くアリゾナからもゴスペル・フラダンサーのTracyさんがご夫婦で来てくださいました。彼女はフラダンス歴が長く、たくさんの公的セレモニーでも踊りを披露し、また指導もしている筋金入りのフラダンサーです。
彼女の深い信仰による踊りから、多くの祈りと修練が積まれていることが伝わり、会場全体に主の臨在を感じることができました。

そしてその背後には、私たちの分身のように心を合せて今年も祈り・奉仕してくださったBethanyチームと日本から参加してくださった支援会委員長の佐藤ヒロアキ師とエリコ姉、またアリゾナのDesert･Springs･Community･Churchチームからも大勢の奉仕者がいました。

私たちサンディエゴ日系キリスト教会は僅か10数名の教会ですが、このように実に華のある豪華なゲスト陣と素晴らしい奉仕者達に支えられ、まるで数百人もいる教会であるかのように、豊かな奉仕を主に献げ、多くの人々に福音の種を蒔きました。本当に主にハレルヤ！です。CampでもJAPANFAIRでも神様からの驚くべき導きと御業がありました。心から主に感謝し御名を崇めます！

その後すぐに日本から、大学生たち9名と引率のアメリカ人宣教師2名がサンディエゴへ遣わされて来ました。彼らは主に保守バプテスト同盟の諸教会から「次世代のリーダーを育てたい！」という思いで集められ、海外宣教体験のために送り出されてきたチームです。教会に与えられている世界宣教という大きな使命を受け止めるために、教会もクリスチャン個人も世界宣教がどのようなものか体験することは非常に重要です。

しかし私たち夫婦は、夏からの疲れがたまっていたのか電池切れのような状態で、JAPAN FAIR後すぐに準備に取りかかれませんでした。一体何ができるか？どんな体験をさせようか？我々だけで本当にできるだろうか？･･･などと、夫婦で一緒に主に祈りながら何日も考えてようやく迎え入れることができました。

ただただ主のあわれみにより、今回も全てが整えられて導かれていきました。本当に主は素晴らしいお方です。

さて、若者達はそれぞれ証しを書いてくれました。是非読んで彼らが何を感じたのか確認して欲しいと思います。私からここでひとことだけ言うなら「みなさん本当に素晴らしかった！」です。その熱意、真剣さ、己と向き合い踏み出す勇気、クリスチャンとしての自覚、へりくだり、喜び、楽しみ･･･どれも素晴らしかったです。引率したデイビッド宣教師も彼らを見て「日本の教会の未来は明るい！」と言われるほどでした。私も同感です。今後も更に必要である次世代のリーダー達がおこされるように共に祈り続けて行きましょう。 SDNCC　柏倉秀吉

夏を駆け抜けて・・・









JAPAN FAIR 2026
DUO高瀬ご夫妻とTRACYさんと賛美チーム











背後で仕えてくださった奉仕者のみなさん

















他にももっともっとたくさんの奉仕者がいます！お写真を載せきれなくてすいません。
皆様本当にありがとうございました！　素晴らしい神の家族を感謝いたします！！

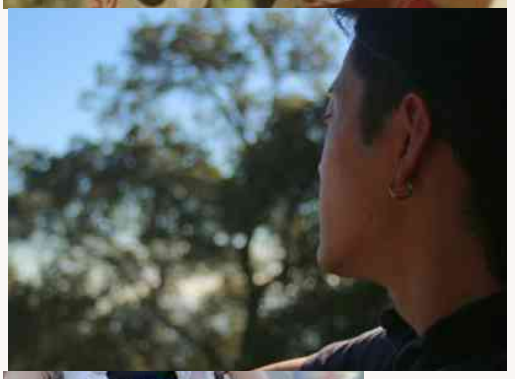
若者達を迎えて･･･



どんなに素晴らしい環境にいたとしても、本人が成長したいと思わなければ豊かな成長は望めない。そうではないでしょうか。

今回集まった大学生達は、自分の信仰の成長に対する強い求めがありました。また多くの方々から祈りと支援が献げられていることも良く理解し、それを無駄にしないように・それが無駄にならないように、精一杯あらゆることを吸収しようと努めていました。
そして、将来の日本の教会のためにも、この体験と学びから何ができるかと、常に信仰を持って様々な視点から物事を捉えようと思いを馳せていました。

滞在は約2週間。毎日ビッチリとスケジュールを組んだので、休む暇も無かったかも知れません。時差ボケだって相当大変なはずです。しかし、それを越えて奉仕する姿がありました。
イエス様こそ、まだ暗いうちから祈りを献げ、ご奉仕なさっていました。私たちも少しはそれを体験出来たかもしれません。



特に最初の日曜日は大変だったことでしょう。朝6時からノンクリスチャンのお父さん達20名くらいとサッカーを2時間！その後オーシャンサイドで午前の礼拝、午後はそこから約60km南下したラホヤで伝道集会。どちらの礼拝でも賛美リードと証、特別賛美･･･などなど。伝道集会では75名の参加者(内45名はノンクリスチャン)がいました。
全ての集会が終わったのが夜8時過ぎ。さらに参加者が普段より多かったためか食事がすぐになくなってしまい、彼らの中には集会中に食事さえできない者達もいました。しかし彼らは時差ボケや空腹と戦いながら愚痴一つ無く主と教会にに仕え、奉仕してくれました。



これらのことは、若いからできた！という面もあるでしょう。しかしそれだけではなかったと思うのです。彼らの中にある成長したいという強い求めがそれを可能にしたのではないかと思います。

今日、宣教は西に西に向かっていると思う人がいるでしょうか。だから日本から東の米国に行くことは時代に合っていない…とさえ思うかも知れません。けれども米国からすれば日本はまさに西です。その日本に、これまでも米国から多くの影響が入ってきました。今もってそうです。



一方、今の米国は私たちの知っているような姿ではなく、これまでとは違う姿で写っていることもあるでしょうか。実際にそういう所もあるでしょう。けれども間違いなく言えることは、米国はこれまでもそうでしたが、今も多くの教会とクリスチャン個人個人は、物凄く伝道している！という事実です。そこに日常に生きた信仰の姿がはっきりと現れています。



今回、若者達は米国の様々なエンターテイメントなスタイルに刺激を受けたかも知れません。けれどもそれ以上に、宣教に対する熱意と団結力、そして生きた信仰の姿と、そこに生きて働く神の導きと御力を体験したはずです。そしてこれこそが、今の日本、そしてこれからの日本の教会にとって無くてはならないものではないでしょうか。彼らはそれを体験していきました。さあ、来年、誰が遣わされてくるのでしょうか？



サンディエゴ邦人宣教をご支援くださる皆様へ

柏倉秀吉宣教師家族をご支援くださる皆様、日々のお祈りとご支援を心から感謝いたします。
柏倉宣教師家族は、家族一丸となって日々宣教の働きに邁進しています。どうぞご家族の健康と宣教の祝福のために覚えてお祈りください。また、ご支援をご検討いただける方は、右のQRｺｰﾄﾞから振込先の詳細を確認できます。どうぞご利用ください。皆様のお祈りとご支援を心から感謝いたします。

問合せ：佐藤ヒロアキ支援会委員長 📞090-1379-5564 ✉ satohiroaki0712@gmail.com

ご献金について



「…わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります」（ヨハネ13：34-35）

今回、保守バプテスト同盟のユースグループ11名（男性5名・女性4名・アメリカ人宣教師2名）が、サンディエゴ日系キリスト教会への宣教旅行に派遣されるにあたり、私も日本からサポートスタッフとして参加させていただきました。私自身、メンバー全員と顔を合わせるのは現地が初めてでした。しかし、宣教旅行が始まるとすぐに、キリストにある一致を感じることとなりました。到着してすぐ3日目の伝道集会の準備に取り組みましたが、印象的だったのは、メンバー全員が「主にあって最高のものを捧げたい」という思い、あらゆる機会や出会いから前向きに学ぼうとする姿勢、そして一人ひとりが自分の役割を認識しながら、互いに助け合い、明るく乗り越えていく団結力でした。それらがすでにチームの中に備えられていることに、大変驚かされました。



もちろん、時差ボケや生活環境の変化によって体調を崩すメンバーもいました。一人ひとり体力も賜物も異なり、感じ方や受け止め方もさまざまです。しかし、まさにその違いの中にこそ主からの知恵と恵みが豊かに注がれており、私自身も一人ひとりを通して多くのことを学ばせて頂きました。誰一人として欠けることのできない、尊い存在なのだと改めて教えられました。





「一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きをしないのと同じように、大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。」（ロマ12：4-5）

「しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったのです。それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うためです。」
（Ⅰコリント12：22-25）

今回の宣教旅行を通して、私は改めて、いつの時代にも変わらない伝道の本質を教えられたように思います。

キリストが私たちを愛してくださったように、私たちも互いに愛し合う。その交わりの中に神の国が現され、聖霊様が働かれ、シンプルでありながら力強い福音が人々の心に届いていくと感じました。











今回、観光先で出会った留学生をその場で教会での夕食会に誘い、カードゲームなどをしながら交流する機会が与えられました。最後にスモールグループで神様の存在について自由に語り合う時間も持つ事ができ、有意義な時間となりました。帰りの車内では、とにかくみんな優しくてあったかかったと留学生達が喜んでいたそうです。
時間にしては数時間の交わりでしたが、連絡先を交換し帰国後もコンタクトを取っています。

振り返れば、私自身が留学生で、まだクリスチャンではなかった頃もそうでした。教会のメンバーが家族のように互いに愛し合う姿を見て、「私もこの人たちのようになりたい」と思い、吸い込まれるように教会へ通うようになりました。





日本人留学生や駐在員のご家族、世界を舞台に活躍するビジネスパーソンなど、さまざまな背景を持つノンクリスチャンの方々と実際に交流できたことも、ユースのメンバーにとって大変貴重な経験になったのではないかと思います。

また、アメリカの教会を訪ね、現地の奉仕者の姿に触れ、その働きについて話を伺う中で、宣教に対する発想の豊かさ、常に地域に開かれている姿勢、そして他の教会や信徒と比較するのではなく、それぞれの個性や賜物が一致と平安の中で喜んで生かされている姿に、私自身も深い刺激を受けました。他にもアメリカならではの場所や体験がぎっしりと詰め込まれた2週間でした。これほど豊かな経験の一つひとつを祈り、計画し、準備してくださった柏倉宣教師ご夫妻の思いとご労苦にも心から感謝しています。



この2週間を通して主が一人ひとりに語ってくださったことを、教会や家族、友人に分かちあって、キリストのからだを養う糧となり、新たな力となっていくことを願っています。
この宣教旅行で蒔かれた一つひとつの種を主ご自身が豊かに育ててくださり、私たちの想像をはるかに超えた主の祝福とご計画へとつなげてくださることを信じ、心からお祈りいたします。

吉木英里子
【ヴィクトリークリスチャンセンター浦安 / 柏倉宣教師帰国者フォローアップ・アドバイザー】

楽しかったサンディエゴ

北上聖書バプテスト教会　　老林生吹



東北学院大学2年生の老林生吹です。私はこの夏、アメリカのサンディエゴで行われた 短期宣教旅行に参加しました。この短期宣教旅行に関わる全てのために祈り、献金してく ださった皆さん、ありがとうございました。初めての海外旅行がこのような祝福されたものになり、心から感謝します。

この短期宣教旅行では日本にいる時よりも、一回の出会いや交流の機会に重みを感じま した。その中で、日本にいる時に自分がどれだけチャンスを逃したのかを考えさせられま した。そして日本でも、もっとキリスト教が日常に溶け込むようになってほしいと思いまし た。



多くの日本人は、初詣やクリスマスなど、イベント化されたものに参加することがあっても、日常生活の中で信仰を実践している人はまだまだ少ないと思います。しかし、アメリカでは、ハンバーガーの包み紙やドリンクのカップの底に聖書箇所が書いてあったり して街の中に自然と溶け込んでいました。この違いを文化的な違いとして流すのではな く、向き合った上でそこから学べることがあると感じました。

私は、日本でクリスチャンが少ないのは環境的な要因が大きいからだと思っています。だからこそ、アメリカのようなクリスチャンがたくさんいて日常生活にも広がっている場所では、信仰を持つ人が増えるのではないかと思います。

今回、サンディエゴに行き、ノ ンクリスチャンの日本人の方々と関わる中で、共通して感じたことがありました。それは、教会に繋がることがあっても、そこから実際に信仰を持つということは、決して簡単 なことではないということです。もちろん教会に繋がること自体が大きな一歩だとは思います。

しかし、実際は教会に通い始めてからがスタートなのだと知らされました。教会に来てもらって満足 してしまうのではなく、その後も関わり続けること、そして日々の生活の中でどれだけありふれたものにするかが大切だと感じました。私自身も、信仰を持つまでには葛藤があり、信じることに怖さを感じることだってありました。しかし、それでもなぜ私たちが聖書の神様を信じているのか、そのことを自分の生き方や言葉を通して伝えていくことが大切なのだと思います。 一回の出会いで信仰を持つことができなくても、教会やクリスチャンとのつながりが続いていくことには大きな意味があります。今回出会った方々がこれからも教会につながり続け、いつか神様を信じることができるように、みんなで日本から祈り続けていきましょ う。私たちが日本の現状に失望して諦めることがあっても、神様は諦めることがありません。この短期宣教旅行を計画してくださった柏倉秀吉先生はいつもアイデアを探し続けて くださいと言っていました。神様は、求めれば惜しみなく知恵を与えてくれます。私は日 本人だからと言って遠慮することなく求め続けていきたいです。

サンディエゴ短期宣教報告

埼京のぞみチャペル　笠井真喜人



柏倉秀吉先生ご夫妻をはじめとする宣教師や現地教会の先生方に大変お世話になり、多くの恵みと祝福について、ご報告いたします。たくさんの祈りと献金、心から感謝します。

旅の初日、私は大きな壁にぶつかりました。ロサンゼルス空港での入国審査において、想像以上に厳しく質問され、英語が十分に聞き取れなかったことでパニックになり、挫折を味わいました。言葉が通じない恐怖と焦りで手が震えるほどの体験でした。

ですが、この失敗を通して14日間、訪れた教会やスーパーなどで「自分から勇気を出して話しかける」ということを繰り返しました。その中で示されたのは、完璧な語学力ではなく、笑顔と自ら一歩を踏み出す勇気さえあれば、神様は素晴らしい出会いと交わりの扉を開いてくださるという真実でした。自分の弱さを受け入れ、神様に頼って踏み出す時にこそ、豊かな交わりが導かれることを知りました。

サンディエゴでは、1万3000人規模の大型教会である「ノースコーストチャーチ」や、若い世代に開かれた「ユースチャーチ」などを視察いたしました。日米のスケール感やアプローチの違いを実感する一方で、地域のニーズや世代に合わせた本気の教会形成の姿に強い刺激を受けました。

この旅において、最も強く神様のご計画を体験したのは、現地に住む日本人留学生たちとの交わりでした。当初予定していた日本人留学生とのバイブルスタディが急遽中止になっていたのですが、4日目、公園を歩いていた際に日本人留学生らしきグループを見かけ、思い切って声をかけたところ、なんと翌日の夕方に5名の留学生が教会を訪ねてくれたのです。

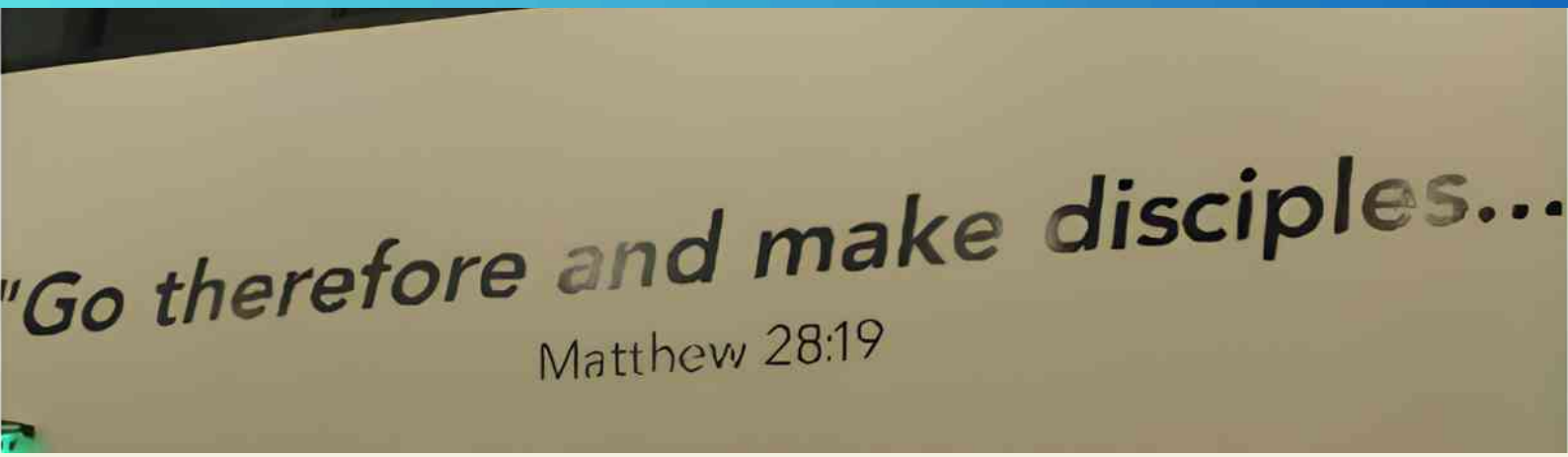
それまで私は、「ノンクリスチャンの方は聖書や神様の話に興味がないのではないか」「引かれてしまわないか」という恐れや偏見を抱いていました。しかし、実際に腹を割って話してみると、彼らは心を開き、たくさんの質問を投げて興味を持ってくれました。特に感謝だったのは、一緒のテーブルでご飯を食べた留学生の新約聖書に、自分の好きなみことばを印付け、「思い出した時に読んでね」と手渡すことができたことです。初めての経験に手が激しく震えましたが、相手が「絶対読むね！」と笑顔で受け取ってくれた時、「自分自身の足で、宣教の第一歩を踏み出すことができた」という言葉にならない大きな喜びと感動が湧き上がりました。神様は、私たちの恐れを払いのけ、必要な出会いと一歩を踏み出す力を必ず与えてくださる方だと実感できました。

旅の終盤、私の心に最も深く刺さった言葉があります。それは、現地で指導してくださった柏倉秀吉先生からいただいた、「まだ若いと言うな」という言葉でした。私はこれまで、「まだ若いから」と言い訳をし、どこかで後回しにしていた部分がありました。しかし、この言葉を通して「『若い』ということは猶予期間があるということではなく、今すぐ神様のために動き出せるエネルギーが与えられているということだ」という事実でした。「まだ若い」と言い訳にして逃げるのではなく、「若い今だからこそできること」に全力を注いでいくということを学びました。

この14日間の体験と学びを単なる思い出で終わらせないための決意をしたいです。サンディエゴで見た「本気で子どもや若者を巻き込み、地域に開かれた教会作り」を、自身の所属教会でも実践します。現在進められている会堂作りにおいても奉仕していきます。現地で出会った留学生や現地の方々の救いと歩みのために祈り続けます。感謝なことに、帰国直後にもサンディエゴで出会った留学生の1人と日本で再会し交わりを持てました。

今回の短期宣教を通して、秀吉先生の大きな背中に学ばされることが多く、自分の弱さや不完全さを痛感させられると同時に、それを遥かに超える神様の恵みと祝福を体験いたしました。

サンディエゴ短期宣教報告



サンディエゴへの短期宣教旅行のために、たくさんのお祈りと献金のサポートをいただ き、心から感謝します。今回、他教団からの参加となりましたが、温かく受け入れてくだ さり、共にこの恵みにあずからせていただけたことを心から感謝します。みなさんの祈り に支えられ、聖霊が働いておられることを実感し、神様が力強く、教会に今もなお生きて 働いておられることを確信することのできた二週間となりました。

使徒の働き14章26,27節

そこから船出してアンティオキアに帰った。そこは、二人が今回成し終えた働きのため に、神の恵みにゆだねられて送り出された所であった。そこに着くと、彼らは教会の人々 を集め、神が自分たちとともに行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくだ さったことを報告した。

私たちはこの期間中に朝のディボーションとして使徒の働きから御言葉を受け取ってい ました。使徒の時代の教会の働きがどのように拡がっていったのか。御言葉から学びなが ら、同時に今も続いている神様の宣教の働きを体験することのできた期間となりました。 この短期宣教旅行を通して、一番私が実感したことは神様が今もなお生きて働いておら れるということです。日本にいる中でも神様が私たちに日々御言葉から語りかけ、祈りを 聞き、働かれていることを感じるタイミングはあります。しかし、日本で普段生活してい るだけでは気付くことのできなかった宣教への思いが与えられ、その中で知識として知っ ているだけでなく、実際の体験を通して力強く働かれる神様の存在を感じることができま した。正直、私は日本の一人の大学生として友人や身の回りの人への宣教に関して、「自分は環境を整えられればそれで良い」「自分じゃなくても誰かがいる」というような思いを 抱いていました。その友人の救いのために祈るけれど具体的な行動には移せない、「いつ か良いタイミングがあれば」「そのうちいつか…」という思いが少なからずありました。



サンディエゴで過ごした二週間を通して、その思いは変えられました。柏倉秀吉先生の 祈る姿勢を見て。現地での宣教の姿を見て。遠く離れた地で言葉や文化が違っていても同 じ神様を礼拝し、御言葉に従っていこうとしている神の家族を見て。

まず驚かされたことは祈りの姿勢です。宣教旅行が始まる前からも、始まってからも事 あるごとに「祈り」の呼びかけがなされていました。毎朝教会を出発した車の中で、また 何かを始める前に。仲間の一人が入国審査で引っかかりそうになった時も「その仲間のた めに祈ったか」と聞かれ、はっとさせられました。自分でも日々祈るということは大事に して意識していても、秀吉先生の生活に染み付いている祈りの姿勢を見ると学ばされるも のがあります。この期間一緒に過ごし、今までの宣教の働きの歩みを聞く中でも、サンデ ィエゴでの宣教においてこの「祈り」がどれほど大きな力になっていたかを思い知らされ ました。秀吉先生が宣教の働きを決心する大きい決断をした時の祈りも、毎朝の小さな祈 りでも、日々神様とコミュニケーションを取り、神様により頼み、明け渡して委ねる。

日本バプテスト利府キリスト教会　金子恵治

そのことによって働かれる聖霊の働きを知り、神様の力強さを知ることができました。そして私たちも実際に祈りに応えられる神様の御業を見ることができました。公園での日本人 留学生との出会いとその後の交わりや与えられた現地の方々との交わり、仲間の証しなど、至る所でその背後に積まれている祈りが確かにありました。そして何よりも神様にあって私たちの旅が守られ豊かに祝福されたものになったと確信しています。

また実際の宣教の姿を通しても、多くのことを学ばされました。あるとき秀吉先生が 「前に福音を伝えるチャンスがあったのに、伝えられなかった人がいる。もうその人とは 会うことはないかもしれない。その悔しさが残っている。」というようなことを分かち合ってくださいました。その中で「いつでも誰にでも届く福音の真理を語る準備をしておく必 要がある」「福音が真理であると言える準備をしておく必要がある」ということを話してく ださいました。この期間中に私たちは正にそのことを体現している秀吉先生の姿を見まし た。日本で考えればすれ違って終わりとなるような出会いも、それで終わらせず夕食会に誘う。日本語が聞こえたと思ったら離れた所にいたはずの秀吉先生がもうその人のところ にいる。私たちはその場でただ見ていることしかできませんでしたが、その一回の一瞬の機会を無駄にしない、福音を伝える機会を逃さない姿にとても学ばされました。

期間中にはアメリカの教会を訪れる機会も与えられました。礼拝前に教会内の施設内見 学とそこでどのようなことがなされているかの説明があり、礼拝後には主任牧師や副牧師 の方々とQ＆Aの時間を持つことができました。アメリカの教会は日本と比べ、人数の規 模も施設の規模も経済の規模も大きく異なります。その中でアメリカの教会から日本の教 会へ何か持ち帰れることはなんだろうと考えたときに、手段や方法を真似しようとしても 難しさがあると思います。しかし、意識的な部分はとても良い参考になり励まされること が多いなと思わされました。地域により開いた教会にしていこうとする意識、神の家族で ある教会同士の在り方について、もっと小さなことで言えば、初めて教会へ来た人を心か ら歓迎するということ。宣教をしていくために、神の国を拡げていくために大切なマインドを気付かされ、受け取ることができました。このような海を越えた地球の裏側で、言葉 や文化が違っていても、御言葉に基づき、変わることのない神様を礼拝し、互いに愛し合 い、今もなお宣教の働きがなされていることを実際に見て体験できたことが私自身にとっ ても本当に大きな励ましになりました。

アメリカから日本に戻り、同じような方法や手段で宣教を行うことには難しさがあると 思います。しかし、宣教に対する思いとそこで働かれる神様の力強さ、確かさは変わりま せん。たとえ私が友人への伝道を諦めたとしても、神様はそのひとりが救われることを決 して諦めないお方です。この宣教旅行にただ行って終わりにするのではなく、受け取った この思いを絶やさず、得た恵みと学びを思い返し 続けたいと思います。自分の中だけに留めるので はなく日本の教会のために用いられていきたいと強く祈り求めます。その祈りを聞いてくださ ことを信じて感謝します。これから主がなさることに心から期待して仕えていきたいです







サンディエゴ短期宣教で受けたこと

つくばグレースチャペル　佐久間創







宣教旅行に参加していながら、宣教は自分から遠い存在に思っていました。今までに、宣教する機会がなかったからです。日本にいると、教会員が減少したり、高齢化したりして、教会を活発にすること自体が難しい場合もあると 思います。その中でも、私たちは日本のたった１％のクリ スチャンとして生きているという召しに答えなくてはならないと思わされる出来事がたくさんありました。

私たちは、サンディエゴでの第二日曜日に、ベサニーチ ャーチという、現地の教会を見学しにいく機会がありまし た。その教会は、敷地内で幼稚園から中学校までを対象と した学校を運営してい て、普段の礼拝には約 300 人が集 まる大きい教会でした。見学中に、施設を説明してくれて いた女性が私たちに向けておっしゃった言葉があります。 「このベサニーチャーチの周りには、さらにほかの教会があり、空港があり、飛行機が飛び交う 様子が教会から見えます。それを見て、私は、ここに世界があると思います。」 彼女が宣教の働きにどこまで関わっていたかはわかりません。しかし、私はこの言葉に、一教会員が世界大の宣教に目を据えて、限りなく宣教を身近に感じている様子を想像しました。






私たちがサンディエゴについて最初のミーティングでは、エレミヤ書の1章を開きました。

「わたしは、あなたを胎内に形造る前からあなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々の預言者と定めていた。エレミヤ１：５」

アメリカではクリスチャン人口が多いため、日本人より教会が身近でも、信仰については曖昧な人がいます。ベサニーチャーチでの昼食会で牧師先生が「日本にはなんちゃってクリスチャンがいないところが、日本の強み。」という風におっしゃいました。日本のクリスチャン人口は1% に満たないと聞きます。しかし、私はクリスチャンの友達を多く与えられていて、その自分を含むほとんどがクリスチャンホームで育っていて、信仰に生きています。エレミヤ書を読んだとき、生まれる前から日本の1%以下のクリスチャンと関わってきた自分の生い立ちこそが、神様から与えられた召しのように感じられました。今まで感じてきた宣教に対する、どこか非現実的で、他人事のような思いがありました。し かし、それらが旅の一つ一つのできごとを通して、「未熟な自分でも世界大の宣教に目を向けていたい。」とか、「神様に召しを求めたい。」という思いに変えられました。

今回の宣教旅行に参加したチームメンバーは、まことに神様が召し出して集められ、弟子訓練をサンディエゴで受け、次世代の宣教のためにたてられていると思いました。チームメンバーのそれぞれが、自分自身にあった場所と役割が与えられることを祈り求め、神様の栄光のために仕えることができたらいいなと思います。

送り出してくださった皆様のお祈りと献金に感謝します。祝福がありますように！！！！！

サンディエゴ宣教旅行で受けた恵み

宮古めぐみキリスト教会　芝本　愛





保守バプテスト同盟諸教会の皆様ならびに宣教団の宣教師の皆様、お祈りと献金のサポートをありがとうございます。私達は、柏倉秀吉先生御一家が仕えているサンディエゴ日系教会に派遣されて参りました。チームメンバーは私の年齢の約半分の元気な大学生達です。彼らのサポートとして縁の下の力持ちになれればと思い羽田空港を出発しました。

到着してからは今までにない時差ボケに襲われて、毎日２～３時間程しか寝られず、持病の喘息も相まって日中も頭痛や息苦しさが常にあり気を抜くと目を閉じている時間を多く過ごしていました。もっとみんなの交わりに加わりたい。プログラムにも、もっと全力で取り組みたい。そう願いながらも体と思考が思い通りにならないもどかしさを抱えていました。

そんな中で神様は私に新たな賜物を備えて下さいました。それは祈りの賜物です。私は今まで、何が出来たか出来ないか。その量で神様にどのくらい仕え恵みを受けたか判断しがちな所がありました。それが今回の宣教旅行ではまっさらな状態になりました。そんな時に、何も出来ないのではない。祈ることが出来る。祈りには強い力がある。神様は必ず祈りに応えて下さる。それが自分の思うようにではなくても、神様の御心のうちに応えて下さる。この事が身をもって体験することが出来ました。

宣教旅行中、体調の不良を抱えながら私は二つのことを強く祈っていました。一つ目は、「メンバー一人一人の賜物が豊かに用いられますように。まだ自分で気づいていないならば、示されますように。」というものです。実際、それぞれが豊かな賜物で満ちていました。心からの讃美、語る言葉の力強さ、リーダーシップ、交わりから学ぼうとする真摯な態度、周りがよく見えている潤滑油の働き、とにかく元気で雰囲気を明るくする、穏やかさで人と人とを繋ぐ、事細かに覚えていて記憶する。まだまだ私も気づくことが出来なかった素晴らしい賜物を神様は彼らに備えていると思います。サポートで加わって下さったえりこさんという姉妹が最後に私達にメッセージを残して下さいました。“一人一人が個性豊かで、信仰と真摯な姿勢がとても素敵で私も学ばされ励まされました。年齢や性別とか関係なく愛し合う「家族」のような繋がりがノンクリスチャンの人達にもきっと輝いて見え、大きな証になったと思います。教会の皆さんも「本当に励まされた！」と感謝していました。”このメッセージを受けて、「彼らの賜物を用いて下さい」という私の祈りに神様ははっきりと応えて下さったと確信しました。

二つ目の祈りは、「彼らが聖霊によって満たされ自分の内に生きて働かれている神様を感じることが出来るように。」というものです。ほとんどのメンバーがクリスチャンホームで育ち、神様という存在に自分自身でも出会いしっかりとした信仰をもって歩んでいます。しかし私自身がそうだったのですが、自分の力によらず、聖霊に満たされ押し出されるという強烈な実体験をまだ経験しておらず、それを熱く求めているということが証を聞いていて明らかになりました。ですので、この宣教旅行を通して彼らの熱い求めに神様がはっきりと応えて下さり、自分の内に神様が生きて働かれていることを実感して帰ることが出来るようにと祈っていました。あるメンバーは、ずっと求めていたこれからのことに、みことばを通して神様は直接語りかけてくれた。聖霊の導きを感じたと分かち合ってくれました。すべてを聞くことは出来ませんでしたが、神様はこの宣教旅行を通して一人一人の内に生きて働かれ、この世の働きに押し出して下さったと思います。生活の場に戻ってもそれぞれが聖霊によって満たされ成長され続ける器として用いられるように私自身も祈り続けます。

宮古めぐみキリスト教会　芝本　愛

　また、今回の宣教旅行で私個人として期待していたことがありました。それはいつもお世話になっている宣教師の先生方の故郷を体験的に知れるという所にありました。私が今、家族で集う開拓教会の責任を担ってくださっているのが今回引率のデイヴィッド先生ですし、今勤めているカフェミニストリーの働きを始めたのもカリフォルニア出身の宣教師の方です。 実際に着いてみると、見るものすべてが大きくアメリカンサイズで驚きました。教会の規模も想像以上で、ハード面や物質面の充実度も桁違いでした。そして、人数も桁違いで力強いマンパワーを感じました。 私が今住んでいる岩手県宮古市は本当に小さな田舎町です。開拓教会も、デイヴィッド先生家族、カフェミニストリーの宣教師家族、私の家族という少数精鋭で守ってきています。 先生達は、全く違う環境にカリフォルニアから来て、この宮古の福音宣教のために仕える覚悟というのは相当のものだと、あらためて感謝の気持ちでいっぱいになりました。 それは、本当に人の思いだけでは、なし得ない事だとも感じました。現地で柏倉先生が仰っていた言葉も印象的でした。「自分が無理だと諦めそうになっても神様が行けと押し出されたからここで仕えているんだ。」という内容だったと思います。

　私も実は、そのような神様の声に従って引き戻されて宮古に帰ってきました。全国を放蕩して旅をして最後に沖縄に着き気に入ったのでそのまま住もうと計画していました。しかし神様は私の意思とは違い、宮古に帰るようにと言われました私も最終的にその召しに従って帰ってきました。
 今回、宣教旅行に参加したことでその召しがさらに明確になりました。世界宣教というと、外に出ていくイメージになりがちですが、私は今いる故郷の田舎町宮古に召されているのだと思います。そして、それは決して消え入りそうな小さな働きではなく、今回見てきたカリフォルニアにいるたくさんのクリスチャンと同じ神様を信じ共に祈りあえる家族なのだということがとても力強い励ましです。

　柏倉家、教会の皆さん、サンディエゴの福音宣教のために。今回神様が私に備えて下さった祈りの賜物を惜しみなく用いていきたいです。神様に期待し、信じて祈り続ける者でありたいです。静まり心から祈るときに受け取る祝福の大きさに驚かされっぱなしの恵みに満ちた宣教旅行でした。素晴らしい御業をあらわして下さる神様に感謝します！！



　次世代を担う頼もしい若者達と共に過ごしたこの宣教旅行は私にとって宝物のような時になりました♪





　サンディエゴから一言：
愛姉は、途中体調を崩して本当に辛そうでした。何とか体調が回復するようにと現地でも祈っていましたが、彼女はそんな中みんなのことを思いずっと祈っててくれました。
最後は笑顔で帰国出来てよかったです！